

令和5年度

デジタル技術を活用した全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」

～福島県伊達市の取組～

福島県伊達市の取組概要

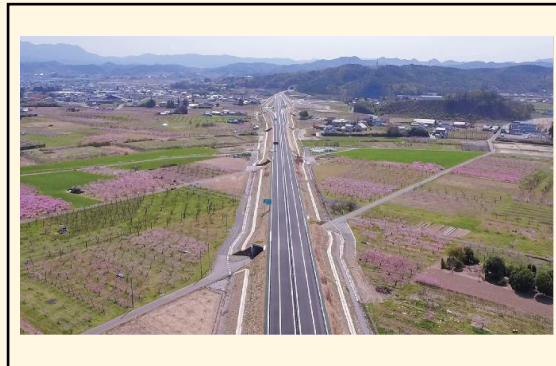
福島県伊達市

■ 基本データ

人口規模・構成：57,386人（2023年3月1日時点）
世帯数：23,043世帯（2023年3月1日時点）
事業所数 商業 約560事業所（卸売、小売業）
工業 約137事業所
農家数 約3800戸

高齢化率：近年急速に高齢化率が高まっており、2023年3月1日時点で37%を超えている。（全国平均よりも高い）
人口の集積状況：住民の多くは保原地域に居住。
約20%が周辺市町村に通勤・通学をしている。
他方で、山間部は高齢化・過疎化が進んでいる。

■ 地域の特徴



【主要産業】

当市は、寒暖差が大きく土地が肥沃であることから、ももやきゅうりなど農作物の栽培が盛ん。東北中央自動車道が開通し、新工業団地が造成された。また、大型商業施設も建設予定であることから、工業・商業ともに振興している。

【歴史】

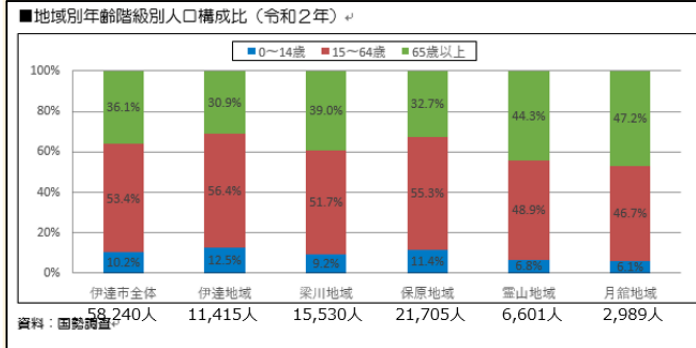
伊達氏発祥の地であり、伊達政宗が戦勝祈願したとされる梁川八幡神社など伊達氏ゆかりの寺院が建立されている。

また、伊達市のシンボルでもある霊山は、北畠顕家が国府を開いたことでも有名。



【生活環境】

近隣の市や町に通勤／通学している住民が約20%を占めている。人口は保原地域に比較的集中しており、全体の人口が減少している中、唯一伊達地域では人口が増加傾向にある。また、新幹線等で東京へは約2時間、仙台へは約40分と大都市への交通の便が良く、東北中央自動車道の開通により、周辺からのアクセスがさらに向上した。



【子育て支援】

「伊達市版ネウボラ事業」では、妊娠前から子育てをネウボラ保健師などのスタッフが切れ目なくサポート。妊娠・出産時の経済的なサポートや、認定こども園・放課後児童クラブの充実など安心して子育てができるような環境を整備している。

福島県伊達市の取組成果

市の重点課題

- 農家は儲からないという風土や市内の農家の出荷先の多くがJAに依存していることから家業を継ぐ若者が少なく、平成22年から10年間で農家数が29%減少し、**農業分野での担い手不足が深刻化**している
- 市内に就労継続支援A型施設等が少ないため、**障がいのある方が市内で仕事や活躍できる場が少ない**
- **デジタル技術の活用による効果を感じる場がなく**、デジタルの推進が進まない

課題への対応

- ① 全世代・全員活躍の拠点となるCCAC交流施設に、**地元農家の農産物や地域住民がつくったお惣菜などを商品化し気軽に販売できる場を提供**し、地域住民等の活躍する場をつくるとともに、やりがい・生きがいづくりによる生涯活躍を進める。
- ② **CCACエリアの福祉施設や、認定こども園などと連携したボランティア活動等を開始し、障がいのある方、ひきこもりの方、働きづらさを抱える若年などが活躍できる場を提供**する。また、活動に応じて地域ポイントを付与する。
- ③ CCAC交流施設の受付に設置している**遠隔コンシェルジュタブレットを活用し、遠隔での受付を実現し、移住相談・空き家相談・健康相談などができる仕組みを構築**する。さらには、来館者数や来場目的なども把握し、業務効率化と施設利用促進のための改善を図る。



高子駅北地区CCAC構想のCCACエリアを中心に事業を検討

【取組のイメージ】

①誰でもチャレンジショップ

農家や地域住民等が参画できる販売の取組



交流施設に気軽に販売できる場を提供。

- ①多世代交流・参画の場の創出、
 - ②生きがいづくり・健康の確保を図る
- ※ 月1回開催されているマルシェとの連携も行う想定

自分らしく暮らせるまちづくりを目指すため、高子地域の資源等を活用し「**農業**」・「**福祉**」・「**健幸**」を基軸とした**多世代交流を進める**。

②地域ボランティア

障がい者等の雇用
と社会参画

地域住民のボラン
ティア活動への参画

障がい者等と地域住民との交流



農業体験イベント

地域交流イベント

清掃活動をはじめとしたボランティア等の取組を通じて多世代・多属性の方々に「WELL-BEING」※の提供が可能

※ 幸福で肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされた状態

③交流施設受付業務のデジタル化



移住相談
空き家相談



健康相談



カーシェア
各種サービス

切れ目なくサービスを提供

取組の検討シート（地域課題の整理）

※「生涯活躍のまち」の5つの観点について、認識している地域課題を列挙(箇条書き)。括弧書きは優先順位(◎、○、△、×)

交流・居場所

- ・若者のニーズを捉えた交流活動がない。
- ・地区を超えた連携による交流活動がない。
- ・多世代交流の活動の場がない。
- ・人口減少や家族形態の変化による地域連帯意識が希薄化している。
- ・コロナの影響により高齢者の交流する場が少なくなった。
- ・プライベート空間(個室での自習、テレワークなど)がない。
- ・カフェやファミレスが少ない。
- ・結婚式などの大人数での集客施設がない。
- ・コロナの影響により外出(交流)を控える高齢者の増加

人の流れ

- ・伊達市へのIターン移住者の実績が少ない。(◎)
- ・地域活動団体と活動内容がわからない。
- ・地域の魅力情報がバラバラでキャッチできない。
- ・人口減少が加速している。(人口58,240人※)
- ・少子高齢化が進んでいる。(高齢者人口36.2%※)
- ・公共交通が不便。(キャッシュレス非対応、本数少ない、料金高い)
- ・進学で転出をきっかけに帰ってこない。
- ・祭りの主催や団体がバラバラで新規参入が難しい。
- ・乗り合いタクシーの利用エリアが分かれており乗り換えが必要。
- ・希望する保育、教育施設に入れない。

活躍・キャリア

- ・農業者の高齢化に伴う担い手不足(◎)
- ・全国トップクラスの農産物の伝承
- ・農業は儲からないイメージがある。
- ・農産物の付加価値
- ・地域活動の担い手が不足している。
- ・一人暮らし高齢者等の買い物・ゴミ出し・雪かきが困難(◎)
- ・新たな働き方に対応したテレワーク施設がない。
- ・大手企業などの就職先が少ない。
- ・若い世代や女性が活躍できる職場が少ない。(◎)
- ・障がいのある方が活躍できる職場が少ない。(◎)
- ・地元商店街の衰退と販路拡大が困難である。(◎)
- ・商店の後継者不足により店舗が減少している。

健康

- ・少子化により子どもたちが希望するスポーツに関われない。
- ・働き盛り世代の健康への関心が低い。(◎)
- ・健康づくりに関心がある方とそうでない方が二極化。(◎)
- ・車移動に依存しているため体を動かす機会が少ない。(◎)
- ・塩分の取りすぎ。(◎)
- ・体育館などの運動施設の利用方法が分かりづらい。
(予約状況や料金体系が分かりにくい)
- ・市内公園等の健康器具の周知と活用不足。
- ・産婦人科などの地域医療が少ない。(◎)
- ・市内の医師の高齢化、後継者問題
- ・生活習慣病の罹患率が高い。(◎)
- ・糖尿病の有所見者の増加(経済困窮者に多い)
- ・高齢者、障がい者の通院のための移動手段の確保が困難。(◎)
- ・障がい等の診断まではないが生活しづらい方の相談、支援先の確保
- ・高齢者の閉じこもりによる、フレイルや認知症の増加
- ・初めての要介護認定申請で、要介護の判定になる人が増加

住まい

- ・旧住宅団地等の空き家が増加している。(住宅団地の高齢化)
- ・水害や地震災害を教訓にした安全で安心できる住まいへの対応。
- ・空地の管理
- ・ファミリー層が住める賃貸住宅が少ない。
- ・宿泊施設が少なく、周知が不足している。
- ・商店街は店舗兼住宅が多く、廃業後はシャッターが閉まったままとなっている。
- ・住んでいるところが商店街から遠く買物が困難。
- ・ゴミ屋敷(片付けができない)
- ・ペットの多頭飼育

その他

- ・伊達市の取組みの周知が不足している。(◎)
(例：LINEアカウント、YouTubeチャンネルなどのSNS、キャラクター、6次化商品)
- ・伊達市のハッシュタグを付けたSNS投稿が少ない。

※前頁で列挙した地域課題のうち、特に優先度が高い課題の詳細を記載

地域課題：
【活躍・しごと】 農業者の高齢化に伴う担い手不足

概要	<ul style="list-style-type: none"> 伊達市の農家数は平成22年から10年で29%減 農業従事者のうち高齢者が75%を占める 高齢で離農したことで遊休農地が増加 あんぼ柿、夏秋キュウリは全国1の出荷量 桃の生産量は県内1位と農業が盛んなまち 	
	農業経営者の平均年齢	(R2) 全国：67歳 福島県：67歳 伊達市：69歳
	農家数の状況	(H22)5,423戸 (R2) 3,868戸
	耕作放棄地の状況	(H22) 1,120ha (H27) 1,507ha
対象 ※課題解決による受益者	農家、農家を目指している人、市の基幹産業	
庁内外関係者	JAふくしま未来、福島県	

これまでの施策

- 新規就農者に向けて、家賃や生活費など移住のための補助。
- 若い営農者に向けて、農地賃貸料や農業機械の補助など安定的な営農を支援
- 地元農協子会社と協働して遊休農地を研修農場に整備
- 新規就農希望者の一元的な支援のため、支援機関が一堂に会する「連携会議」を月に一度開催
- 大型特殊免許取得補助
- 6次化商品開発補助

効果 (解決したこと)	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者の増加 大型機械の購入促進 6次化商品開発による地場産品の活用
課題 ・未解決の課題 ・新たな課題等	<ul style="list-style-type: none"> 農家は儲からないという教育（風土）があり、家業を継ぐ若者が少ない。 新規就農者は年々増加傾向にあるものの、それ以上に高齢化を理由に離農者が増加 農業収入とその他職業の収入の差が埋まらない スマート農業をするにも、機械は高額であり準備資金が乏しい。 土地が余っていても、貸したくない方が多い。 出荷先はJAに依存。新たな販路拡大を意識する人が少ない。

地域課題：
【活躍・しごと】 障がいのある方が活躍できる職場が少ない。

概要	<ul style="list-style-type: none"> 伊達市内に、小学部・中学部・高等部の児童生徒が通学する特別支援学校「福島県立だて支援学校」が令和4年度に開校 生涯活躍のまちの拠点となる高子駅北地区において、生活介護と就労継続支援B型の福祉施設が令和5年5月より開所 	
対象 ※課題解決による受益者	障がいのある方、就労支援施設等	
庁内外関係者		

これまでの施策

- B型の施設整備への支援
- 就労の推進・定着を支援する障がい者就労サポート専門員の配置（業務委託）
- 通所に係る交通費の1/2の助成支援

効果 (解決したこと)	<ul style="list-style-type: none"> 市内での就労継続支援B型施設の充実
課題 ・未解決の課題 ・新たな課題等	<ul style="list-style-type: none"> 就労継続支援A型の施設が市内に少ない。 通所の手段等が少なく、福島市内へ人が流れる。 送迎困難な家庭（親の高齢化等）が増加

※前頁で列挙した地域課題のうち、特に優先度が高い課題の詳細を記載

地域課題：
【活躍・しごと】若い世代や女性が活躍できる職場が少ない。

概要	市内に大企業の本社・支社が少なく、進学・就職をきっかけに転出する若い世代が多い。若い世代や女性（主婦）が伊達市に住まいながら都心の仕事やオンラインで出来る仕事を紹介する機会が少なく、テレワークが可能な施設の整備も不十分である。
対象 ※課題解決による受益者	伊達市民（特に若い世代や女性）
庁内外関係者	

これまでの施策

- 工業団地を整備し、企業の誘致を行った。
- 移住者（転入者）を対象にした交流会を年3回程度実施している。
- 高子駅北前開発地に交流施設を建設し、テレワークが出来る環境の整備。（2023年10月末に完成予定）

効果（解決したこと）

- 雇用機会の創出
- テレワーク環境の整備

課題
・未解決の課題
・新たな課題等

- 現地での業務による雇用創出に留まっており、居住地に縛られないオンライン（遠隔）で出来る仕事の紹介が出来ていない。**
- テレワーク施設の整備が不十分。**

地域課題：
【活躍・しごと】地元商店街の衰退と販路拡大が困難である。

概要	<ul style="list-style-type: none"> 地元商店街が衰退する中、大型商業施設などの出店が予定されており、商店街は、今まで以上に事業の差別化や販路拡大等が求められている。 持続可能な商店街を目指すためには、買物に来れない人へのサービスが効果的であるが、制度導入には初期投資やランニングコストが課題となる。 						
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>H30年度</td> <td>R4年度</td> </tr> <tr> <td>商工会の会員数 (商業・サービス業)</td> <td>822会員</td> <td>759会員</td> </tr> </table>		H30年度	R4年度	商工会の会員数 (商業・サービス業)	822会員	759会員
	H30年度	R4年度					
商工会の会員数 (商業・サービス業)	822会員	759会員					
対象 ※課題解決による受益者	伊達市内の商店						
庁内外関係者							

これまでの施策

- 伊達市プレミアム商品券やスタンプの発行（商工会）により、地元商店街の利用促進や消費拡大を行っている。
- ふるさと納税の返礼品に地元特産品を活用し、伊達市特産物の魅力発信と消費拡大を行っている。
- 商店街の魅力向上・賑わい創出のため、空き店舗を活用した改修や家賃、新商品開発、既存店舗改修、イベントへの補助を実施している。

効果（解決したこと）

- 市内商店街を中心とした消費拡大
- 空き店舗の減少

課題
・未解決の課題
・新たな課題等

- 地元商店街の販路拡大（ネットショップなど）**
- 一時的ではなく通年で地元商品を地元の方が買う流れの構築
- インターネットを活用した周知やサービスの構築
- 地域密着型サービスの提供（商品配達や見守りなど）
- 複合型の支援が必要（商店単体での運営は難しい）

※前頁で列挙した地域課題のうち、特に優先度が高い課題の詳細を記載

地域課題：
【活躍：しごと】一人暮らし高齢者等の買い物・ゴミ出し・雪かき
が困難

これまでの施策

- ・低料金で買い物に行けるデマンド乗り合いタクシーを提供。
- ・高齢者向けにスマホ教室を開催している。
- ・地域自治組織への支援。

概要

- ・徒歩圏に商業施設がない市民が多く、車移動が前提となっている。
- ・ネット販売も普及しているがインターネットやスマホが使用できることが前提のため、車運転が困難な方やデジタル弱者の方は生活困難。
- ・外出やゴミ出しが困難な状況に加えて、冬は雪かきも困難。このような方に買い物や生活を支援する仕組み、デジタル弱者に対しても対応できる仕組み作りが求められる。

効果
(解決したこと)

一人暮らし高齢者や車の運転が出来ない方に低料金で買い物に行く機会を創出。

課題
・未解決の課題
・新たな課題
等

- ・車移動が前提となっているので自宅に居ながら商店街の商品を買い物することは出来ない。
- ・荷物の持ち運びが難しい。
- ・ゴミの分別、ゴミ出しなどの生活支援が不十分
- ・デジタルの進歩はあるがその恩恵を受けられていない。
- ・**デマンドタクシーの機能に軽介助が可能になれば利用者が増える。**
- ・デマンドタクシーだと持ち込める荷物に制限があって、買いためができない。

対象
※課題解決による受益者

一人暮らしの高齢者等

庁内外関係者

地域課題：
【健康】高齢者、障がい者の通院のための移動手段の確保が困難

これまでの施策

- ・タクシーより低料金で通院できるデマンド乗り合いタクシーを提供。
(地区ごとに、予約と乗り換えが必要)

概要

一人暮らしや高齢者のみ世帯の増加
特に山間部では通院等の移動距離が長く、車移動が必要となり、高齢になっても車の運転を続けている。併せて市内の医療機関が減少している。地区によっては診療科が限定されてしまい、地区外や市外の病院へ行かなければならない。(精神科は市内に1カ所)
特に山間部では、バスも本数が減少し利用しにくい等、移動手段の確保が課題になっている。
タクシーを利用すると高額となり、定期通院をためらう要因になり、必要な医療を受けられないケースも出てきている。

効果
(解決したこと)

高齢者や車の運転が出来ない方に低料金で通院の機会を確保

課題
・未解決の課題
・新たな課題
等

- ・市外の病院への通院や買い物等に利用できない。
- ・**地区を越えての利用の際に乗り換えが発生するため、利用しにくい。**

対象
※課題解決による受益者

一人暮らしや高齢者のみ世帯等
定期通院を要する障がい者

庁内外関係者

※前頁で列挙した地域課題のうち、特に優先度が高い課題の詳細を記載

課題：

【健康】車移動に依存しているため体を動かす機会が少ない。

概要
公共交通が都心程充実しておらず、徒歩圏に勤務先や商業施設がないため車移動が主流。そのため歩くなどの運動機会が少ないため、肥満や運動不足が課題。特に若い世代は健康意識も低いいため、健康促進イベントなどを実施しても参加率が低い。観光向けレンタサイクルサービスを数カ所で展開している一方、市民の健康との結びつきが出来ていない。

対象
※課題解決による受益者
地域住民（比較的若い世代）

庁内外関係者

これまでの施策

- ・健康ウォーキングイベントや元気づくり会で運動の機会を提供し、マシンを使って運動できる「健幸クラブFine」や「だてな健幸ポイント（ふくしま健民アプリを活用）」などで運動を促進している。
- ・レンタサイクルを設置し、ジャパンエコトラックと連携したサイクリングコースも設定した。

効果
(解決したこと)

- ・比較的高齢者の健康意識の向上、イベント参加

課題

- ・未解決の課題
- ・新たな課題等

- ・**若い世代の健康意識が低い（無関心）。**
- ・継続的な取組みとするためのコミュニティ（仲間）形成に課題。
- ・充実したレンタサイクルサービスを市民が健康のために利用するという流れが作れていない。

課題：

【健康】働き盛り世代の健康への関心が低い。

概要
一人当たりの医療・介護費の10年間の推移をみると医療給付費は15.1%、介護給付費は10.6%増加している。健康なうちから健康を意識した生活を送る市民を増やすことが課題。

メタボ該当者・予備群者の割合 (H30)	33.2%
若い世代で運動習慣 (1回30分以上) がない人の割合	67%

対象
※課題解決による受益者
働き盛り世代

庁内外関係者

これまでの施策

- ・住民が身近な集会所等で自主的に実施する運動と交流による健康づくりを推進。
- ・自然と歩きたくなるまちづくりとして健康器具やポケットパークを整備。
- ・各種健診・がん検診の受診率向上と重症化予防対策を実施。
- ・元気づくり会等でポピュレーションアプローチを実施。

効果
(解決したこと)

- ・住民が身近な集会所等で自主的に実施する運動の場が増え続け、交流を深める「通いの場」となっている。
- ・「通いの場」を活用したポピュレーションアプローチによる予防事業の推進。

課題

- ・未解決の課題
- ・新たな課題等

- ・**健康づくり無関心層の行動変容**

※前頁で列挙した地域課題のうち、特に優先度が高い課題の詳細を記載

課題：
【健康】健康づくりに関心がある方とそうでない方が二極化

概要	健康の関心度が世代間で差がある。がん検診についても、若い世代の受診率が伸びない。一方、高齢層については受診率は高い。
対象 ※課題解決による受益者	市民
庁内外関係者	

これまでの施策

	・市民ががん検診を受診しやすい体制整備（集団検診の各地区開催・土日開催・施設検診実施）
効果 (解決したこと)	・がん検診の受診率の微増
課題 ・未解決の課題 ・新たな課題 等	・若い世代の受診率の低迷

課題：
【健康】塩分の取りすぎ

概要	伊達市特定健診有所見率における腹囲や血糖値、腎機能などが悪化傾向にある背景には、「食」の影響が多く関与している。 平成30年度より、市民健診において「推定尿中塩分摂取量測定検査」を導入し、市民の食塩摂取状況を確認。 食事摂取基準1日当たりの食塩摂取目標量より約3g多く摂取していることが判明。 令和4年度 男性：10.0g/7.5g 女性：9.6g/6.5g
対象 ※課題解決による受益者	市民
庁内外関係者	

これまでの施策

	<ul style="list-style-type: none"> ●H25～「血管を守る大作戦」H30～「血管を守る大作戦2」 <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診事後指導・重症化予防訪問等 ・CKD重症化予防事業 ・推定尿中塩分摂取測定検査 ・地区・事業所アプローチ（出前講座） ●日本高血圧学会が制定した「毎月17日は減塩の日」普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・媒体（ポスター、チラシ、ティッシュ、資料など）を作成し配布（置） ・「減塩推進応援店」登録事業（食環境整備） ・公共施設に「自動血圧計」「血圧手帳」配置（市民自身の健康管理） ・HP、SNS投稿、CATVなどデジタル画面を利用した啓発 ・街頭啓発の実施 ・次世代に向けた減塩アプローチ（1.6歳児健診、小中高の児童・生徒）
効果 (解決したこと)	塩と体の関係や野菜摂取の効果を理解する人が増え、「減塩商品」「減塩調味料」を利用する市民が増えた。 次世代へのアプローチにより、子から親世代への減塩教育が行われた。
課題 ・未解決の課題 ・新たな課題 等	市民全体に「減塩」の必要性を理解してもらうためには、継続して普及啓発していく必要がある。

※前頁で列挙した地域課題のうち、特に優先度が高い課題の詳細を記載

課題：
【健康】産婦人科などの地域医療が少ない。

概要	市民が身近な診療所で受信できるよう医師の確保を図る。
対象 ※課題解決による受益者	市民（全世代）・医療機関
庁内外関係者	

これまでの施策

地域医療確保対策事業
 ①仁泉会（北福島医療センター・梁川病院）へ運営費の一部を助成し、2次救急医療体制の強化及び地域医療体制の充実・強化を図る。
 ②福島県立医科大学総合内科・臨床感染症学講座を寄附講座により北福島医療センターへ設置し、複数疾患を持つ患者の受け皿とする。
 ③伊達市診療所承継支援補助金制度の創設（R5.5～）

効果（解決したこと）
 ①地域医療の中核を担う病院の財政の健全化
 ②医師の確保
 ③実績なし

課題
 ・未解決の課題
 ・新たな課題等
 上記対策を講じても市内医療機関は減少傾向にあり、地域医療の維持・継続が困難になる事態も想定される。
 特に、市内に産科がないこと、小児科の医療機関が少ないことに対する市民の不安は大きい。

課題：
【健康】生活習慣病の罹患率が高い。

概要	特定健診結果から生活習慣病有所見者数（リスク保持者）の割合が多い R4年度 有所見者割合 HbA1c 65.8% LDLコレステロール 49.2% 収縮期血圧 48.5% 腹囲 35.5% メタボリックシンドローム該当者 21.8% メタボリックシンドローム予備群 10.7%
対象 ※課題解決による受益者	地域住民
庁内外関係者	国保年金課

これまでの施策

生活習慣病予防対策「血管を守る大作戦3」の実施
 ハイリスクアプローチ
 保健師・栄養士による訪問指導や健康相談
 特定保健指導・重症化予防指導・CKD重症化予防
 ポピュレーションアプローチ
 全世代に対する生活習慣病予防に関する出前講座・広報・周知

効果（解決したこと）
 ハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチの継続により、
 ・収縮期血圧は5%程度の低下がみられた。（平成27年度からの比較）
 ・生活習慣病予防への関心が高まった。

課題
 ・未解決の課題
 ・新たな課題等
 特定健診結果から、依然として生活習慣病有所見者は多い状況である。
 特に、HbA1cは突出しており、増加傾向である。
 また、メタボリックシンドローム予備軍・該当者は横ばい傾向である。
 今後も、糖尿病やメタボリックシンドロームを強化した生活習慣病予防対策を継続する。

※前頁で列挙した地域課題のうち、特に優先度が高い課題の詳細を記載

地域課題：
【人の流れ】伊達市へのIターン移住実績が少ない。

概要
伊達市への移住実績をみると、Uターン者がほとんどでありIターン者の移住実績が少ない。移住関心層へのアンケート結果では、伊達市の認知度が約5割程度で、うち、実際に訪れたことがある割合は15%程度と低く、伊達市への訪問での居住経験がない人であり、伊達市の食・仕事・魅力を含めた生活の体験ができる施設がない状況にある。

対象
※課題解決による受益者
地域住民

庁内外関係者

これまでの施策

- ・移住コンシェルジュを配置し、首都圏等から地方への移住希望者を対象に総合相談や情報発信等を実施しているほか、都内開催のセミナーや相談会に参加している。
- ・生涯活躍のまちの拠点となる高子駅北地区において、交流お試し施設とお試し居住施設を整備（R5.11以降供用開始予定）。
- ・市内で不足している保育・福祉職に特化した移住支援制度を実施。

効果
(解決したこと)

移住への漠然としたイメージや不安を持つ移住検討者に対し、コンシェルジュが親身に寄り添い対応することで、確実な伊達市への移住に繋がった。

課題
・未解決の課題
・新たな課題等

- ・ **相談窓口**に常駐する**コンシェルジュとオンラインですぐにつながり、顔が見える形でどこにいても気軽に相談できる体制が必要。**
- ・伊達市外にいながら伊達市での生活が体験できる「オンラインお試し居住」の実施。→ふるさと回帰支援センター等都内相談窓口VR機器を設置し、VRで伊達市お試し居住を体験など。

地域課題：
【その他】伊達市の取組みの周知が不足している。

概要
市政だよりは紙配布、各自治会の回覧板等も紙配布、交流施設や運動施設の予約もアナログで予約状況や料金体系が分かり難いのが現状。市政だよりはHP上で電子配布しているが、紙配布も併用している状況。伊達市LINEアカウント（友達1400名程度）はコロナ関連情報のみで活用しきれていない。YouTubeチャンネル（登録者数1700名程度）Twitter（フォロワー3050名程度）Facebook（フォロワー1160名程度）Instagram（フォロワー1550名程度）

対象
※課題解決による受益者
伊達市民

庁内外関係者

これまでの施策

各コンテンツ（HP・SNS）で地域の魅力や情報発信を実施。市政だよりは電子化してHP掲載。交流施設や運動施設の運営・管理は市から委託した団体に任せている。

効果
(解決したこと)

一定数の方には地域の魅力や情報が届けられている。交流施設や運動施設の運営・管理負担は市から手が離れている。

課題
・未解決の課題
・新たな課題等

- ・ **情報発信元がバラバラで統一されていない。**
- ・市政だよりの電子化をしても紙配布コスト抑制に繋がっていない。
- ・ **交流施設や運動施設の予約が電子化されておらずUI（ユーザーインターフェース）が低い。**

中長期的に実現したい状態

- 農業法人化による雇用創出と収益向上
- 伊達市に住みながら仕事ができる環境づくりと仕事の誘致
- 地元商店街の販路拡大と活性化
- 高齢者が安心して生活できるシステムの構築
- 働き盛り世代の健康意識の向上と継続的に健康づくりに取り組めるコミュニティを形成
- 首都圏などにいながら伊達市の魅力が伝わるVR体験
- 伊達市の情報発信の一元化

そのために直近2～3年で取組みたいこと★

- 農地集約化
- **障がいのある方の雇用マッチングシステム（農福連携）**
- **農作物を直接販売できる仕組み、ブランド化など**
- 企業と連携し居住地に縛られない仕事を誘致
- 伊達市在中の働きたい方とのマッチング
- 地元商店街の販路拡大（ネットショップなど）
- 健康イベントをマッチさせた商店街の活性化
- 車の移動が困難な方やデジタル弱者でも対応できるサービスの構築
- 交流施設を拠点に継続的なイベントによる外出促進
- コミュニティ形成の運営
- 健康づくりの効果や意識向上の見える化（評価システム）
- 運動ができる場と保健指導を一体的に提供
- レンタサイクル等をきっかけとした健康づくり
- リアルと融合した体験
- 移住定住コンシェルジュと遠隔による相談体制の構築
- 分散している情報発信を集約
- **伊達市のポータル機能から個別エリア（自治会単位）に細分化させ、情報発信する（アナログ回覧板を電子化）**



★を具体化するにあたり不足している情報・要確認事項

- 在宅・テレワークで働ける企業情報
- デジタル弱者でも対応できるサービスの情報
- 働き盛り世代がコミュニティ（仲間意識）を形成する方法
 - 健康意識向上の見える化する方法
 - 働き盛り世代が関心を持つイベント
- リアルタイムで移住定住コンシェルジュとつながるデジタル技術
- ホームページとの違い
 - 市民に広く周知し使っていただくための方法
 - SNSの活用方法

目指す将来像の整理

目指す将来像

「全世代・全員活躍のコミュニティによる世代循環型のまち」

高子駅北地区CCAC施設を拠点として、農業×福祉×健幸を基軸とした多世代交流や新たなサービスを提供することで、誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくりを進めます。

将来像と地域課題を踏まえて、今後実施したい事業

【交流・居場所】

- 新たな働き方に対応した**テレワーク機能を備えた交流施設**や伊達市の魅力や生活感を体験できる**お試し居住施設を市内外の多くの人に利用していただき多世代交流の拠点**としたい。また、**交流施設で地域の魅力情報やイベントを発信する拠点**としたい。

【活躍・しごと】

- 高子地域周辺の農家の担い手確保や遊休農地等を活用した**農業体験・農業インターン生を受け入れたい。**
- **テレワークを推進している企業の仕事などを紹介できる仕組み**を構築したい。
- 買い物やリサイクルごみ等の収集が大変な**高齢者と地元商店のマッチングサービス**を行いたい。

【人の流れ】

- 相談窓口に常駐する移住定住コンシェルジュと**オンラインでつながり、いつでもどこにいても気軽に相談できるようにしたい。**

うち、デジタル技術を活用して取り組みたい事業

- **CCAC施設（交流施設とお試し居住施設）の利用促進**
 - ・ **デジタルを活用した交流施設の受付**の検討
 - ・ お試し居住施設や農業体験プログラムの予約、イベント情報の発信といった**幅広く利用できるアプリ等の導入**検討
 - ・ 移住検討者や移住者（転入者）が**いつでも気軽に相談できるオンライン等の導入**検討
- 遊休農地等を活用した農業インターンや就農体験、果樹ワーカーといった**マッチングシステムの導入**検討
- テレワーク推進企業、社員の健康増進を推進している**企業のマッチングシステムの導入**検討
- 高齢者の生活支援（地元商品や資源ゴミの回収など）と地元商店街の販路拡大のための**オンラインサービス等の導入**検討
- 若い世代等の**ウォーキングアプリや健康データの活用**等の検討

目指す将来像の整理

目指す将来像【全体像】

- 伊達市では、高子駅北地区において「**年齢や職業、障がいの有無や性差に関係なく誰もが住みたくなる、自分らしく暮らせるまちづくり**」を目指すこととし、全世代・全員活躍という意味からCCACとして定義。

Continuing Care Retirement Community

Continuing Care Active Community

- 高子駅北地区CCACの実現に向けて、自然豊かな高子地域の資源等を活用し「**農業・福祉・健康**」を基軸とした**多世代交流を進め、「人・もの・産業」をつなぐことで、新しい価値を育みます。**



【交流・居場所】

- 子育て世帯や若い女性（移住・転入者など）が気軽集えるよう、**定期マルシェや体験プログラムといった楽しみや地域とのつながるイベントを行い、居場所と活躍する場を提供**する。また、地産地消のカフェメニュー提供や連携施設「認定こども園」での一時預かりをセットにした**テレワークスペースの提供、地域ならではの情報発信**「地域情報掲示板」を行う。
- 交流人口・関係人口の拡大や子育て支援が充実している伊達市への移住者を増やすため、**お試し居住施設（1棟）での伊達市の食・魅力を含めた生活体験**を提供する。また、市内で不足する保育職等の人材を確保するため、**就業体験等を行う県外学生等を受け入れる。**

【数値目標：お試し居住施設利用者数 1年目12組、2年目以降24組】

【活躍・しごと】

- 交流施設やお試し居住施設の体験プログラムとして、**高子地域の耕作放棄地等を活用した農業体験や農福連携事業を行う。**
- 連携施設となる福祉施設の障がいのある方との交流とあわせて、**高子地域の農産物の収穫や販売などの農福連携事業に取り組む。**
- 買い物に行くのが大変な高齢者と**地元商店のマッチングサービスにより、地域の経済活性化と地域住民の利便性の向上を図る。**

【健康】

- 高子駅北地区を実証フィールドとした、**働き盛り世代の健康意識の向上と未病の改善につなげるための取り組みを行う。**



取組の検討シート（方向性の検討・具体化）

事業具体化に向けた施策のブレインストーミング

未解決の課題
/新たな課題

- ◎ 農業者の高齢化に伴う担い手不足と収入格差、遊休農地等の利活用
- ◎ 障がいの方の送迎対応問題
- ◎ テレワーク企業情報不足等
- ◎ 地元商店街の販路拡大
- ◎ デマンドタクシーのサービス拡大等
- ◎ 若い世代等の健康意識が低い
- ◎ デジタル弱者の解消

No.	施策の対象者	実現したい状態	施策イメージ	施策タイプ	備考
1	農家、農家を目指している人	農家の担い手不足と耕作放棄地の解消により、伊達市の基幹産業である農業の活性化を進める。	高子駅周辺の農家と農家を目指している人をマッチングするシステム構築や耕作放棄地を活用した体験農業などを提供（農業法人化含）		
2	農家、住民等	農家の売り上げ向上による付加価値化や地域住民等のチャレンジによる商品化・販売できる場を提供し、生きがいづくりにつなげる。	誰でも販売・チャレンジショップ事業 新たな販路拡大のためのシステム構築		
3	障がいのある方、地域住民等	障がいのある方に対して、地域住民と交流しながらの仕事を提供することで、活躍できる場を市内に増やす。	高子駅北地区に住む地域住民と交流しながらの清掃活動や物販販売等に参加		
4	若い世代や女性等	テレワークを推進する企業情報を提供するとともに、市内でテレワークができる施設を充実させ、若い世代等に対して新しい働き方を提供する。	市内でテレワークできる施設を整備（11月以降、CCAC施設供用開始予定）するとともに、テレワークを推進する企業情報を収集		
5	市内商店街、利用者等	地元商店街の販路拡大（ネットショップ等）による商店活性化と商品配達による高齢者等の見守りを行う。	利用者ニーズの多様化を踏まえた、訪問型・ネット型・タブレット型による買い物支援サービスを地域密着型（商品配達と見守りサービス等）により提供		
6	一人暮らし高齢者等	一人暮らし高齢者等の生活支援（買い物、通院、ゴミ出し等）により、安心した生活がおくれるようにする。	利用しやすいデマンドタクシー（商工会で運営）の構築		伊達市商工会と保原町商工会の2商工会が運営
7	若い世代	若い時からの健康づくりにより、高齢になっても元気に暮らしていく。	減塩の普及啓発や健康づくり（レンタサイクル等を通じた健康づくりなど）を推進		
8	移住検討者、関係人口	伊達市での生活感や魅力を体験できる施設を提供し、関係人口の創出やIターン移住者を増やす。	CCAC施設のお試し居住施設に体験プランをセットで提供。また、移住定住コンシェルジュと遠隔による相談体制を構築		
9	デジタル弱者	高齢者などのデジタル弱者への支援により、誰一人取り残されない、人に優しいデジタル社会を進める。	スマホ教室の開催など		実施中

事業具体化に向けた施策のブレインストーミング

未解決の課題
/新たな課題

◎行政や地域情報等の分散、情報発信がアナログ

◎施設利用者等の把握がアナログで非効率

No.	施策の対象者	実現したい状態	施策イメージ	施策タイプ	備考
10	地元企業	地元企業と連携し、地域住民の健康をきっかけとしたコミュニティの形成をめざす。	CCAC施設内に健康管理室を設置。福祉や健康をテーマとする研修会や健康イベントなどを開催。		
11	地域住民、福祉施設との連携	リサイクル活動やボランティア活動の推進により、地域住民のコミュニティ形成とやりがいづくりを推進する。	地域ボランティア促進事業 ボランティア活動の募集。リサイクルステーションの設置。これら活動による収益をコミュニティ向上のイベントで活用できるポイントなどを発行し、地域住民に還元するシステムを構築		
12	市の広報宣伝 地元企業・団体	伊達市の情報発信の一元化	分散している情報発信を集約 伊達市のポータル機能から個別エリア（自治会単位）に細分化させ、情報発信する（アナログの回覧板を電子化するイメージ）		
13	市民 （トライアルとして一部地域住民）	未病対策をサポートすることで、健康寿命を延ばし医療費削減を目指す	健康状態の見える化が可能なアプリを活用し、日常的な健康測定結果を蓄積。生活指導を受けながら、健康意識を高め、早い段階での健康づくりを促進。 （肥満、病気になってからでは効率が悪く、遅い）		
14	市民 （トライアルとして一部地域住民）	オンライン診療～オンライン服薬指導～お薬配送が当たり前になる社会	オンライン診療対応可能な医療機関を拡充させ、移動困難な方や慢性的な症状の方などが自宅から診療～服薬指導を受け、近くの施設でお薬が受け取れる仕組みの構築。		
15	市民 （トライアルとして一部地域住民）	施設受付業務の効率化	遠隔コンシェルジュ付タブレットを受付に設置し、常時人がいなくても、遠隔で受付業務が対応できる仕組みの構築。		
16	地元企業・団体	集客数、来場目的の集計業務の効率化	タブレット端末にタッチするだけで、地域振興イベントや交流施設等の集客数、来場目的を把握することができるシステムの導入。		

事業具体化に向けたデジタル技術調査

No.	見つけたデジタル技術/サービス	企業/団体名※	技術/サービス概要 (URL)	市での活用局面
1	高齢者向けスマホ教室	***株式会社	・ダイエット、運動、勉強など同じ目標を持った5人でチームを作り楽しく続ける習慣化アプリ	フレイル予防とデジタルデバインド解消
2	暮らしのスマホ教室	***株式会社	・人生100年時代において誰もがスマホを活用することで、より快適で豊かな生活を実現するために、スマホの操作・活用を楽しみながら学ぶことができるスマホ教室の開催	地域で支えるデジタル活用サポーター育成とデジタルデバインド解消
3	農業マッチング ポータル	株式会社***	県が整備するデータ連携基盤と連携し、「農作物オーナー制度」「規格外品売買マッチング」「農業体験マッチング」サービスを提供	農業振興、フードロス、観光など
4	高齢者見守りソリューション	***	IoT見守りセンサーを用いた高齢者の見守りソリューション。管理業者や管理人が適宜、室内の「温度」「湿度」「照度」「運動量」を確認可能	1人暮らし独居老人や障がい者向の見守り
5	販路拡大 (ネットショップ)		No3やNo4を組み合わせることで、フードロス、地産地消、生きがいづくり、などにつなげる。	
6	デジタル商品券・ポイント事業の導入	株式会社***		

※ホームページでの公表にあたり、「企業/団体名」は一部加工しています。

マッチングイベントの振り返り

マッチングイベント前の整理事項

イベントで
収集したい情報

- ・ 伊達市同規模の自治体でデジタルを活用した事例や伊達市の課題解決に合ったプラン（農業や商業などをテーマとする地域の賑わい創出など）の情報収集がしたい。
（ランニングコストを考慮した中長期的に運用可能なプランなど）

マッチングイベント後の整理事項

事業設計に関する
事項
（サービス利用者
の設定など）

- ・ 具体的な制度設計にまでは至らなかった。

民間事業者等との
議論で得られた示唆

使えそうなデジタル
技術・留意点

- ・ 高齢者の健康をテーマとするスマホ教室 → CCAC施設を拠点に若者等が利用促進できる内容

その他

- ・ 医療費が増え続ける日本社会において健康づくりのシステムは必須であるが、健康データの収集と分析結果をどう活用すべきかが重要であり、提案内容に対するランニングコストが懸念される。
- ・ タクシー事業者との連携による通院介助などは、連携できる環境にあれば、今後、必要になる事業と感じた。
- ・ デジタル技術の活用ではないが、伊達市所有用地（CCRC残地）活用の点で、興味を持った事業者がおり、その後、意見交換する予定である。

マッチングイベントを
通じて見えてきた
次に取り組むべき事項

- ・ 庁内の議論やCCAC事業者等との議論を深め、さらなる事業検討が必要と感じた。
- ・ 伊達市で取り組みたい事業と、すでに構築されているシステム（アプリなど）のため、マッチングが難しいと感じた。
- ・ マッチングイベントでの提案内容は、ランニングコストの面で実現が難しいと感じた。

デジタル技術の特定と生涯活躍のまちにおける位置づけ

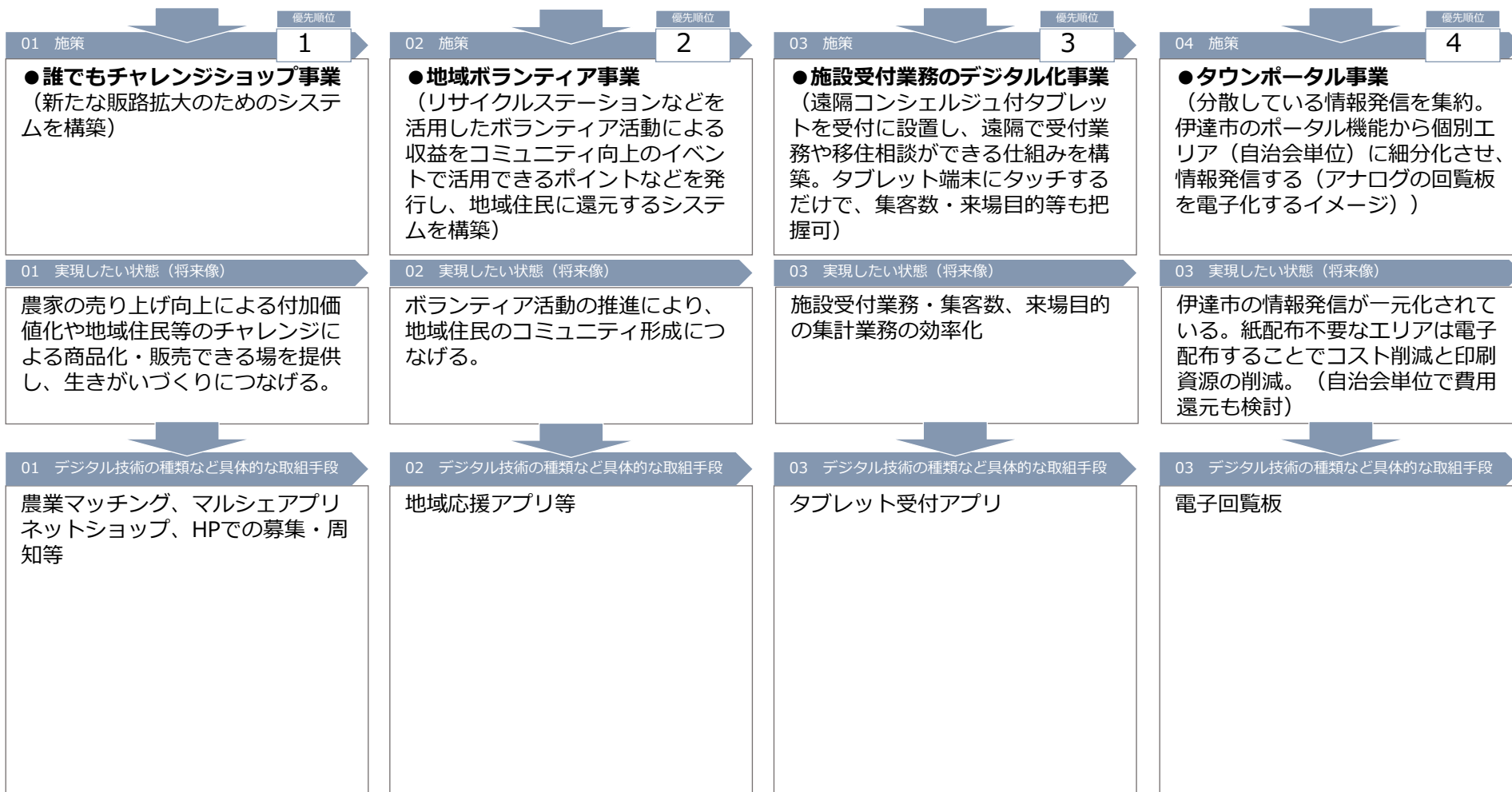
プレスト No.	施策イメージ ▶プレストシートの記載内容再掲か、更 新したものを記載	① 「生涯活躍のまち」としての 妥当性・重要性 ▶誰もが居場所と役割を持つ地域コミュニティづくりに資するか ▶コミュニティを通して課題解決や相乗効果の発揮につながるか	② 連携施策 (記載できるだけ記載)	③ 取組の緊急性・スパン (短期・中期・長期)	④ 取組予定 時期	⑤ 優先 順位
1	高子駅周辺の担い手不足などの農家とのマッチングや体験農業などを提供するシステムを構築	移住検討者、学生、障がいの方などによる体験農業や農家のお手伝いを通じて活躍することで、自信や生きがいを持って社会参画を実現する。また、農業の新たな担い手確保につなげる。	福祉施策との連携	中・長期	—	5
2	農家の売り上げ向上による付加価値化や地域住民等のチャレンジによる商品化・販売できる場など、新たな販路拡大のためのシステムを構築	農作物や地域住民等が地元資源等を活用してつくったお惣菜や作品などを商品化し、気軽に販売できる場を提供することで、生きがいとやりがいにつなげる。また、月1回開催している朝市・ハロハロマーケットでの販売により地域住民との交流と地域活性化を促進する。	ハロハロマーケット	中・長期	—	1
3	CCAC施設に設置したリサイクルステーションなどを活用したボランティア活動による収益をコミュニティ向上のイベントで活用できるポイントなどを発行し、地域住民に還元するシステムを構築	子ども、学生、高齢者、障がい者などの多世代交流や助け合いを通じた活動による全員活躍と地域活性化を目指す。	福祉施策との連携 高齢者施策との連携	—	—	2
4	分散している情報発信を集約。伊達市のポータル機能から個別エリア（自治会単位）に細分化させ、情報発信する（アナログの回覧板を電子化するイメージ）	地域情報を発信することで住みやすいまちを実現し、定住者増加による地域交流を促進する。	—	—	—	4
5 (プレ スト シート No.8、 15,16 統合)	遠隔コンシェルジュ付タブレットを受付に設置し、遠隔で受付業務や移住相談ができる仕組みを構築。タブレット端末にタッチするだけで、集客数・来場目的等も把握し業務効率化と分析対応する。	高子駅北地区をはじめとする地域住民等が利用しやすい施設と住みやすいまちづくりを目指す。また、地方移住検討者への遠隔相談に対応し、Iターン移住者等を増やし地域の担い手確保と地域活性化を目指す。	—	—	—	3

デジタル技術の特定と将来像との整合性確認

(生涯活躍の) まちの将来像 (ビジョン)

「全世代・全員活躍のコミュニティによる世代循環型のまち」

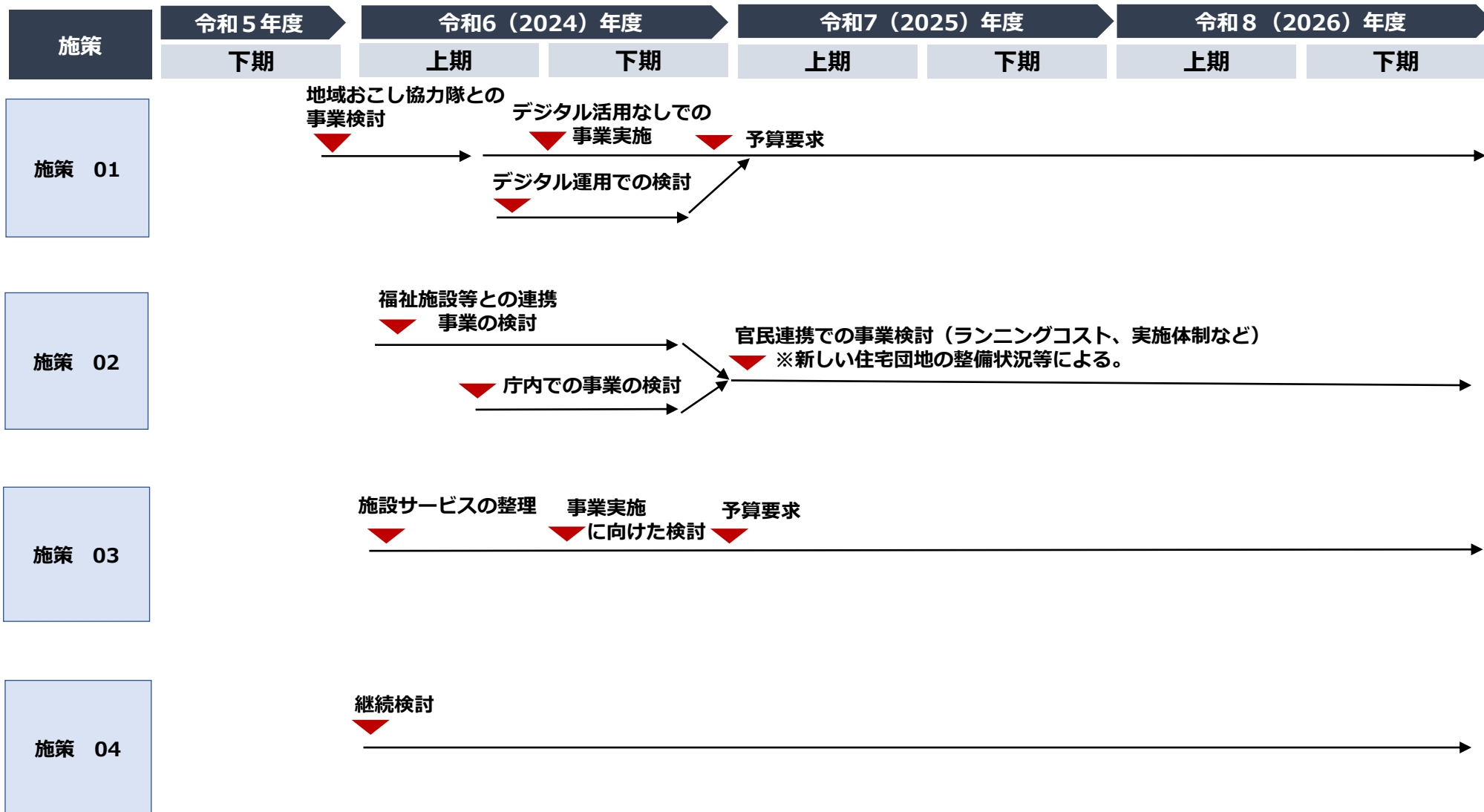
高子駅北地区CCAC施設を拠点として、農業×福祉×健幸を基軸とした多世代交流や新たなサービスを提供することで、誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくりを進めます。



※ここでのデジタル技術の種類はおおまかなもので良いが、具体の企業のサービスなどがあれば記載。

デジタル技術の特定と将来像との整合性確認

【今後の見通し（暫定）】



個別事業の具体化検討

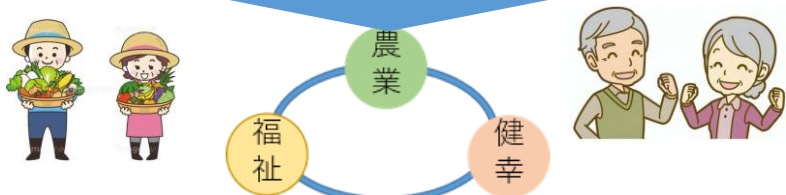
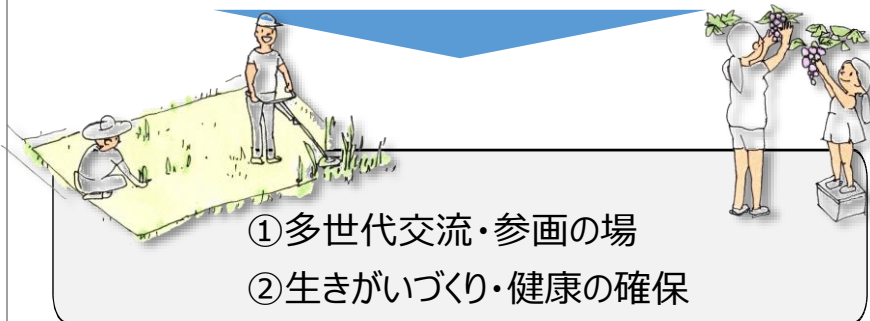
【事業の概要と目的】

事業名	誰でもチャレンジショップ事業	対応する5分野	活躍・仕事 交流・居場所 健康
事業概要	地元農家の農産物（商品販売できないもの含）をJA以外にも簡単に出荷できる場を提供する。また、農作物以外にも地域住民がつくったお惣菜などを商品化・販売ができる場を提供する。地域起こし協力隊として当市にきた方が主体となり、当市HPなどで参加募集を行う。		
事業実施により解決したい課題	伊達市の農家数は、平成22年から10年の間に29%減少し、さらには、高齢化75%と全国・県平均より高い状況にある。その要因としては、農家は儲からないという風土があり、家業を継ぐ若者が少ない状況にある。コロナ禍の影響で交流を控える地域住民が増え、活躍する場が少なくなった。		
事業を実施することで実現したい状態	全世代・全員活躍の拠点となるCCAC交流施設に、地元農家の農産物や地域住民がつくったお惣菜などを商品化し気軽に販売できる場を提供する。新たな販路拡大により地域住民等の活躍する場を提供し、やりがい・生きがいづくりによる生涯活躍を進める。デジタルで商品管理から販売までできる取り組みを進める。また、月1回のマルシェ（ハロハロマーケット）でも販売への参加を促し、地域住民との交流を促す。		

【生涯活躍のまちの全体像との関係性の確認】

生涯活躍のまちの全体像と事業目的・効果の関連性

農家や地域住民等が参画できる販売システム



自分らしく暮らせるまちづくりを目指すため、高子地域の資源等を活用し「農業」「福祉」「健康」を基軸とした多世代交流を進める。

事業と連携できる可能性のある他事業と連携方法

交流・居場所	月1回開催しているマルシェ（ハロハロマーケット）での販売による交流	活躍・しごと	農作業や商品化での活躍
人の流れ	学生などがショップ事業の運営担い手としての関係人口の創出	健康	
住まい		その他	

個別事業の具体化検討

【事業の概要と目的】

事業名	地域ボランティア事業	対応する5分野	活躍・仕事 交流・居場所
事業概要	CCACエリアの福祉施設や認定こども園などと連携した清掃活動（こどもや障がいのある方が住宅団地の資源ごみ回収や清掃活動など）を行ったり、民間事業者・地域住民が楽しみながら環境配慮を考えるグリーンライフ・ボランティア活動などに取り組むことで、CCAC施設や交流イベントで利用できるポイントを付与する。		
事業実施により解決したい課題	市内に就労継続支援A型施設等が少ないため、障がいのある方が市内で仕事や活躍できる場が少ない。また、保護者の高齢化により送迎困難な家庭が増えており、公共交通を利用した駅などから近い場所での活躍する場が必要になる。伊達市の健康寿命については男性が79.2歳・女性が84.2歳である。車依存の生活で運動不足となっている若い世代など、健康な時から社会参加を通じた活動に参加することで、心身ともに健康に過ごすことが重要である。		
事業を実施することで実現したい状態	障がいのある方、ひきこもりの方、働きづらさを抱える若年など、市内での仕事や社会参画することでの活躍する場を提供する。また、地域住民のボランティア活動や交流活動に応じてポイントなどを付与し、社会参加を促す。		

【生涯活躍のまちの全体像との関係性の確認】

生涯活躍のまちの全体像と事業目的・効果の関連性

障がい者等の雇用
と社会参画



地域住民のボランティア
活動への参画

障がい者等と地域住民との交流



農業体験イベント



地域交流イベント

多世代・多属性の方々に
「WELL-BEING」※の提供が可能

※幸福で肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされた状態

事業と連携できる可能性のある他事業と連携方法

交流・居場所	障がいのある方と地域住民との交流活動	活躍・しごと	障がいのある方の仕事創出による活躍
	人の流れ	健康	
住まい		その他	

個別事業の具体化検討

【事業の概要と目的】

事業名	施設受付事業のデジタル化事業	対応する5分野	その他
事業概要	CCAC施設の受付に遠隔コンシェルジュ付タブレットを設置。遠隔での受付業務により、移住相談・空き家相談・健康相談などができる仕組みを構築。さらには、来館者数や来場目的なども把握し、業務効率化と施設利用促進のための改善を行う。		
事業実施により解決したい課題	来館者の目的がわからないため、対応スタッフが困惑するとともに来館者もストレスとなる。（切れ目ない窓口体制） 来館者が相談したいことを事前にタッチパネルでリクエストする仕組みの構築。 また、CCAC施設の運営スタッフ不足もあるため、効率的な受付が必要である。		
事業を実施することで実現したい状態	<ul style="list-style-type: none"> ・受付業務の効率化 ・来館者に対する切れ目のない相談対応 ・来館者数や目的等の把握による改善対応 など 		

【生涯活躍のまちの全体像との関係性の確認】

生涯活躍のまちの全体像と事業目的・効果の関連性



切れ目なくサービス対応



移住相談
空き家相談



健康相談



カーシェア

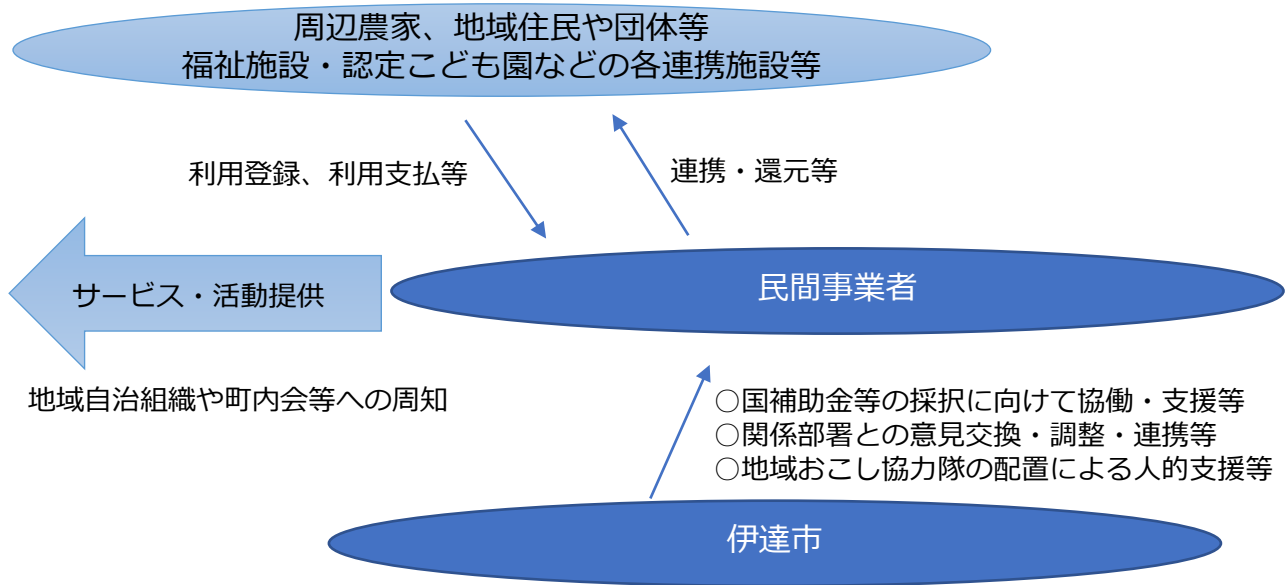
各種サービス等

事業と連携できる可能性のある他事業と連携方法

交流・居場所	地域交流イベントの利用	活躍・しごと	
人の流れ	移住定住コンシェルジュとの相談 お試し居住施設の利用相談	健康	健康相談
住まい	空き家相談	その他	カーシェアの利用 リサイクルステーションの利用 宅配ボックスの利用 など

個別事業の具体化検討

【事業のスキーム図（暫定）】



- ・事業実施主体は、地元の民間事業者・団体等を想定。
- ・伊達市としての役割は、補助金の採択に向けての支援や関係部署との意見交換などを想定。
- ・事業利用者としては高子駅北地区の周辺農家や地域住民などを想定。農産物や商品化したものをプレイスメイキングふくしま伊達のCCAC施設を拠点に販売できる仕組みを構築。また、地域住民や福祉施設・認定こども園などの各施設とも連携し清掃などのボランティア活動に取り組む。

【事業の検討】

事業の利用者	地元農家、地域住民等	事業利用者にとっての参加メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味や特技を生かしたチャレンジが可能になる。 ・気軽に地域貢献活動に参加ができる。 ・事務手続きが簡単に参加ができる。
利用者にアプローチする方法 (宣伝など)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊との連携による周知 ・CCAC施設での各種イベントでの周知 	利用者増加のために連携した方がよい団体/機関	地域自治組織
事業を実施するフィールド	高子駅北地区CCAC交流施設		
KPI	今後、事業の詳細を検討する中で検討		
財源イメージ (ビジネスモデル)	売上マージンによる運営など		
民間事業者の概要 (業種など)	地域再生推進法人の指定を受けている事業者や民間事業者等		